

米国における看護教育とへき地医療を担う ナースプラクティショナーの活動

寺田 香奈里¹⁾, 相原 佳奈子¹⁾, 黒田 侑希¹⁾, 佐寄 里奈¹⁾,
前田 真梨亜¹⁾, 八代 利香¹⁾

要旨 鹿児島大学の学生海外研修支援事業として、医学部保健学科学部生5名が米国での研修を行った。サンフランシスコ大学看護学部を拠点として、へき地医療の現場や関連病院を訪問した。大学における看護学講義の聴講、演習への参加、さらに現地学生や医療専門職との交流やディスカッションを通じて、米国の医療・看護制度の実状を学ぶと同時に、多くの学びがあった。その成果として、今回は、米国における看護教育とナースプラクティショナーの活動について報告する。

キーワード: 米国, へき地医療, 看護教育, ナースプラクティショナー (NP)

はじめに

鹿児島大学では、大学憲章に基づき、自主自立と進取の精神をあわせもち、社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材の育成を図るため学生海外研修を支援する目的で「鹿児島大学学生海外研修支援事業」が実施されている。

平成27年度支援事業では、医学部保健学科看護学専攻学部3年生5名、および卒業研究資料収集目的の4年生1名が、アメリカ合衆国サンフランシスコ大学看護学部および地域保健医療施設で海外研修を行った。今回の海外研修には、鹿児島大学医学部・歯学部附属病院看護師2名と保健学科教員1名が同行した。

本学看護学専攻の「離島看護学」の講義科目では、諸外国におけるへき地医療の現状を知り、わが国のへき地医療のあり方と看護専門職が果たす役割について学習することが目的の一つとなっている。医師が常駐しておらず、医療の恩恵に十分に浴することのできない離島へき地の多い鹿児島の医療状況においては、看護師の担う役割は大きい。

今回の海外研修は、米国のへき地に重要な役割を担っているナースプラクティショナー（以下NPと略す）の実際の活動を学ぶこと、また米国の看護大学の講義・演習に参加して、日本の大学における看護教育との類似点や相違点について学び、さらに米国学生との交流を深めることを目的として実施された。

今回、2015年8月31日から9月7日までの8日間に、サンフランシスコ大学看護学部を拠点として、関連保健医療施設とNPの活動の実地見学および研修を行った。また、看護学部生が受講している講義と看護技術演習への参加やディスカッションを通して米国の看護学生との交流を行ったので、その内容と研修の成果について報告する。

1. 研修の事前準備

今回の研修については、「離島看護学」の講義履修前に学部3年生に向けて説明が行われ、参加者募集が行われた。“米国での交流が島嶼・へき地での活動と自身の将来にどのように影響するか”というテーマのレポート

¹⁾鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻
連絡先：八代 利香
〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
Tel/Fax : 099-275-6755
E-mail: yatsu-r@health.nop.kagoshima-u.ac.jp

をもとに選考が行われ、参加学生5名が決定した。

教員による事前オリエンテーションが計3回行われ、研修目的とスケジュール、研修費用、パスポートと航空券の手配、海外での保険と安全、事前学習、帰国後の報告書作成などについて説明がなされ、米国の文化・習慣・言語、サンフランシスコの気候・土地柄・産業、サンフランシスコ大学看護学部の概要、参加する講義・演習の内容（ホームページでのシラバス確認¹⁾²⁾、米国と日本における看護教育体制・保健医療体制についてそれぞれの特徴および相違について調べ事前学習を行った。また、米国の看護学部生に向けて英語でプレゼンテーションを行うことについて事前に承諾が得られたことから、プレゼンテーションの内容を検討し、鹿児島の特徴、離島医療、災害医療（桜島の噴火）、看護学専攻のカリキュラムや学生生活について、英語で準備を行った。また、日本の医療制度や看護師の特定行為研修制度についても学習を行った。

2. 研修の実際

表1に示す内容で研修を行った。

- 米国の看護学部講義の聴講と看護技術演習への参加
および英語によるプレゼンテーションの実施
受講した講義は、「Community and Mental Health Nursing」¹⁾ および「Medical-Surgical: Management of the

Adult」の2科目であり²⁾、いずれの科目においても米国の学生は積極的に質問をしていた。日本との違いは、1クラス20人ほどと少人数制であることから、学生と教員との距離が近いとの印象を持った。

基礎看護技術演習では、2年生の科目として位置づけられている開創処置、滅菌手袋の装着、採血の演習に参加した。演習は少人数制で行われており、学生が指導者に質問しやすい環境であった。日本では看護師が行わないために教育されていない術後の開創処置については、最新のエビデンスに基づき指導をしていただいた。米国では、医師は術後一度のみ創処置を行い、その後の創処置は看護師の役割であることから、看護師の役割の重要性と責任の大きさを実感した。

また、肌の色の異なるモデルを使用する等、多国籍国家の国柄に合わせた演習が組まれていた。演習中や演習後のカンファレンスでは、学生は積極的に質問・発言し、演習で習得した技術を確認していた。指導体制は、3名の学生に一人のTAが付くというきめ細かなものであり、教員のみならず卒業生や大学院生、上級生が実技指導を行うことで、下級生は上級生との交流を深め、上級生は自身の技術の反芻・向上が望めるという、双方にとって効果的な演習がなされていた。基礎看護技術演習では、エビデンスに基づく指導体制と大変勉強熱心な現地学生の姿から、わが国の看護技術教育についてのあり方を考

表1. 海外研修のスケジュール

日付	時間	参加したプログラム
8月30日	～17:45	サンフランシスコ空港到着
8月31日	8:00	キャンパスに到着
	8:30～11:15	講義: Community Health Nursing
	11:15～12:00	昼食
	12:00～13:30	ホワイトコートセレモニー(2年生白衣授与式)
9月1日	13:00～	キャンパスツアー
	7:30	キャンパスに到着
	7:30～12:00	基礎看護技術演習
	12:00～13:00	ピザパーティー
	13:00～17:00	シミュレーション演習
9月2日	17:00	ホテルへ帰宅
	6:00	キャンパスに到着
	6:15～9:15	フレズノへ移動(車で約4時間)
	9:15～16:00	クリニック視察
9月3日	16:00～20:00	サンフランシスコ市内へ移動
	9:00	キャンパスに到着
	9:30～11:00	講義: Medical-Surgical: Management of the Adult
	11:00～12:30	昼食
	12:30～17:00	スクールフェスティバル(新学期の学生交流が目的)
9月4日	17:00～	Karshmer学部長との食事会
	9:00	キャンパスに到着
	10:00～11:30	病院視察
9月5日	11:30～17:00	自由時間
	9:00～17:00	市内視察
9月6日	1:45～	サンフランシスコ空港出発

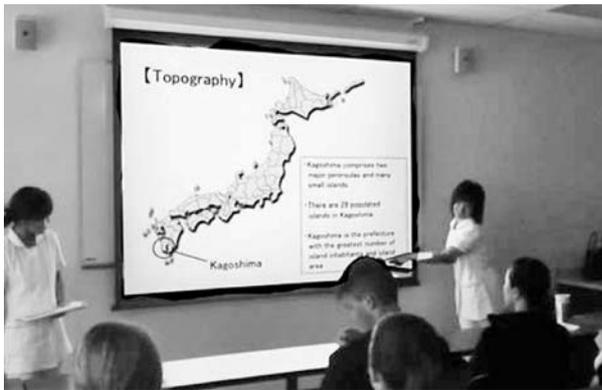


写真1. 本学学生によるプレゼンテーション



写真2. シミュレーション演習でチームを組んだ学生及び教員と一緒に

察することができた。

最も印象に残り、本学の教育にも取り入れて欲しいと希望するのは、サンフランシスコ大学で行われているシミュレーション演習である。3年生である本学学生は、全身のフィジカルアセスメントをテーマにした2年生の技術演習に入らせていただき、先方学生がプライマリナース、本学学生がセカンダリナースと記録係りの3名1組でチームを組み、実際のシミュレーション演習を体験した。演習の前に演習担当教員から口頭で提示される患者背景の理解には困難をきたしたが、学生間での事前の打合せは、積極的に意見を述べる先方学生に圧倒されながらも、自分の意見をしっかりと伝え、効果的な打合せができたと考える。しかし、実際の演習では患者役のモデル人形に英語で声かけをするのが難しく、訓練されたコミュニケーション技術でモデル人形とも臆せず話を続け、必要な情報を引き出しアセスメントに繋げる現地2年生の姿に困惑しながらも感銘を受けた。米国の学生はコミュニケーションの能力と技術が高く、患者との間で自然な会話を通じたアセスメントやケアを行うことができている。

た。また、患者と絶えずコミュニケーションをとり、患者が訴える症状を的確にアセスメントし、体位変換などの対応を行っていた。米国では、より実践に即した演習が行われており、臨床現場での即戦力が身に着く効果があると思われた。

米国の学生に向けたプレゼンテーションでは、米国学生が真剣に聞いている姿が印象的であった。英語を用いての初めてのプレゼンテーションであり、自分自身の英語力にもどかしさを感じるものとなったが、同時に、伝えるという行為は共通の行為であるため言語的コミュニケーションだけではなくジェスチャーなどの非言語的コミュニケーションの大切さについても改めて考えさせられた。本学の講義においてもプレゼンテーションを行う機会が設定されているが、看護学にもグローバルな視点が必要とされる今日、我が国の看護学教育においても英語によるプレゼンテーションや講義を取り入れることも必要であると感じた。

2) 医療施設への訪問と見学

NPは、病気の診断と治療・処置および対象者の健康管理を役割とし、高度実践看護師として修士レベルの専門的な訓練を受けた登録看護師である³⁾。米国では1960年代初めにNP教育が始まり、臨床現場のみならず、地域医療においても重要な役割を担っている⁴⁾。今回、へき地において第一線で活動しているNPから貴重な話を聞き、米国における地域医療実践の現場を見学することができた。

NPに相当する看護職種は、現在日本には存在していない。日本においては、「特定看護師」という位置づけで、2014年6月に「特定行為に係る看護師の研修制度」が創設され、2015年10月より研修制度が開始されたが⁵⁾、特定の医療行為を実施できるのはあくまで「医師の指示の下」で「特定の医療行為を遂行できる」ことが前提となっている。つまり、医師の指示を受けることなく医療

行為を施すことは不可能であり、この点で米国の NP とは大きく異なっている⁶⁾。

サンフランシスコから車で4時間かけて、カリフォルニア州の中央を占めるセントラル・バレーに位置するフレズノ市のリードリーという地域を訪問し、NPとしてその地域医療に携わる看護師から、NPの仕事内容および経験を直接聴く機会を得た。農場が広がるその地域は移民が多く、人口の76.3%はヒスパニック系であり、23.9%は貧困層である。そのため、病院を受診しない家庭が多く、NPへの依存度が高いとのことであった。異なる文化の人々に気軽に医療を受けてもらうため、学校に保健センターが併設されており、児童・生徒を通じた保護者への教育的取り組みがなされていた。へき地とはいえ、他職種や行政機関と連携を図りながら、その地区特有の健康問題を捉えた取り組みがなされており、NPの活動を通じて理想的なへき地医療のあり方について学ぶことができた。また、異なる文化や習慣を持つ人々に、医療の専門家としてどのようにアプローチするかについての学びを深めた。NPは医学的な診療的側面と、全人的ケアの側面を併せ持つ医療者として高度な医療実践を行っている。NPは、身体的疾患のみならず、患者個人の社会的背景、家庭、経済状態、個人のアイデンティティなどの多様な要因を加味した立場から、地域医療の実践者として第一線で活躍しているという印象を受けた。

3. 学生の振り返り

研修終了後、学生は学生海外研修支援事業の報告書作成と、医学部主催の報告会でのパワーポイントによる発表を行った。報告会はサンフランシスコで研修を行った学生5名で共同して資料を作成し、韓国で研修を行った学生と合同で行われた。米国での地域医療と日本の地域医療の違いや、米国での学生教育の特性など、参加したプログラムに沿って学んだことを詳しく説明することができた。また説明した内容をふまえて、現在の日本の医療に必要なことや、日本の看護学生にとって必要なことを改めて考え直し、問題提起することができた。

今回の海外研修で、医療におけるNPの役割や地域の特性を活かした医療活動等について学ぶ過程で、我が国においても、今後の急速な少子高齢化の進行や慢性疾患の増加、およびへき地医療に対応してためには、看護職者が自律して医療活動を行える制度の必要性について実感させられた。また、看護職の役割を十分に果たすためには、一層の自身の知識・技術の向上に努めるとともに、自身の自律心を涵養し、患者中心の医療を推進することが重要であることを痛感した。

演習への参加や医療機関の見学からは、多様な異なる文化や価値観が存在することを学び、異文化理解は、

「国際看護」と「離島看護」とでは共通したコアエレメントであることに気づかされた。

これらの経験は我々が抱いていた既存の看護活動のイメージを大きく拡大する機会となった。今回の海外研修で得られた学びを活かして、疑問や主体性を持ちながら残された学生生活を有意義に過ごし、将来は地域住民への安心できる医療の提供、そして人々の健康増進に貢献できるよう努力していきたい。

謝辞

施設訪問や大学講義の聴講やプレゼンテーションという貴重な機会をくださったサンフランシスコ大学看護学部の教職員、訪問施設のスタッフの皆様、研修の機会を与えてくださった鹿児島大学の教職員の方々に深く感謝いたします。

文献

- 1) サンフランシスコ大学看護学部：講義Community and Mental Health Nursing
<http://www.usfca.edu/catalog/course/community-and-mental-health-nursing-0>
- 2) サンフランシスコ大学看護学部：講義 Medical-Surgical: Management of the Adult
<http://www.usfca.edu/catalog/course/medical-surgical-nursing-i-management-of-comprehensive-adult-patient-care-0>
- 3) 吉本なを：第1回国際セミナー「韓国と米国におけるナースプラクティショナーの役割」から、鹿児島大学医学部保健学科紀要、2009、19巻、P49-52.
- 4) 草間朋子，林猪都子，赤司千波，他：日本でナースプラクティショナーが果たす役割。日本医事新報，2007（4365），P77-80.
- 5) 厚生労働省：特定行為に係る看護師の研修制度，
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>
- 6) 日経メディカル特集：「看護師特定行為」で医師の仕事はどう変わるか。日経メディカル，2015（576），P63-72.

Nursing education and activities of nurse practitioners in the United States

Kanari Terada¹⁾, Kanako Aihara¹⁾, Yuki Kuroda¹⁾, Rina Sazaki¹⁾,
Maria Maeda¹⁾, Rika Yatsushiro¹⁾

1) School of Health Sciences, Faculty of Medicine, Kagoshima University

Address correspondence to: Rika Yatsushiro
8-35-1 Sakuragaoka, Kagoshima 890-8544, Japan
Tel&Fax: 099-275-6755
E-mail: yatsu-r@health.nop.kagoshima-u.ac.jp

Abstract

As a student overseas training support project of Kagoshima University, five undergraduates students of the School of Health Sciences in the Faculty of Medicine were trained in the United States. They visited the University of San Francisco, affiliated hospitals and rural health care facilities and learned about the health care system and nursing education through the experience of attending lectures and seminars and participating in the simulation of nursing skills and discussions with the students and health care professionals. Nursing education and the activities of nurse practitioners in the United States are reported.

Key words: United States, rural health care, nursing education, nurse practitioner